

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H05218

研究課題名（和文）尊厳概念のグローバルスタンダードの構築に向けた理論的・概念的・比較文化論的研究

研究課題名（英文）Towards a global standard of dignity as a philosophical concept: theoretical approaches, conceptual histories, and cross-cultural comparisons

研究代表者

加藤 泰史 (KATO, Yasushi)

椋山女学園大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：90183780

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 130,500,000円

研究成果の概要（和文）：「人間の尊厳」は現代社会において差別や技術の濫用に対抗する理念として国際的に重視されている。しかし、尊厳についての包括的理解はなく、非欧米圏における尊厳についても十分な研究はなされていない。そこで、本研究では尊厳概念を多角的な観点から分析するために、欧米圏および非欧米圏の研究者による学際的な研究グループを構成し、欧米圏の尊厳概念を再検討/整理すると共に非欧米圏の尊厳概念史を構築した上で両者を比較統合すると共に、主体が客体に対して取る態度が適合しているかどうかにより価値の正否を判断する「態度適合理論」を拡張して尊厳概念の包括的理解への足がかりを築いた。これらの研究成果は多くの書籍として出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

欧米には尊厳について優れた研究成果があるが、非欧米圏の尊厳についての研究は十分とは言えない。これに対して、本研究は日本・中国・韓国を中心する東アジアから「尊厳」を見直すことで尊厳概念を多元化し、尊厳による国際的な相互理解および社会統合への道を開くことができたと共に、「態度適合理論」の拡張にも一定程度成功するという理論面での成果を上げた。また、コロナ・パンデミックという未曾有の危機に際して、「尊厳」の観点からコロナ・パンデミックにアプローチし、その研究成果を書籍として刊行することで、コロナ禍という困難な状況下でも尊厳研究を通して市民の不安等に対処することで社会へ貢献することができた。

研究成果の概要（英文）：The notion of ‘human dignity’ has gained international recognition as a crucial concept capable of addressing various issues in modern society, such as discrimination and the misuse of technology. However, the vague consensus on the importance of ‘dignity’ has thus far lacked a comprehensive and systematic understanding. Particularly, there is a pressing need for research into its use and definition in non-Western contexts. This project gathered scholars from diverse national backgrounds, both Western and non-Western, to establish a research group dedicated to investigating this concept from multiple angles. As a result, the research project laid the groundwork for a comprehensive understanding of the concept of dignity. The findings and insights from this research have been documented in several book publications.

研究分野：哲学・倫理学

キーワード：人間の尊厳 人権 カント哲学 生命の尊厳 18世紀ドイツ思想史 価値論 品位ある社会 生命倫理学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「人間の尊厳」概念はプラトンの「ἀξία/axia (人間の内的価値)」の観念をキケロが「dignitas」と翻訳したところから始まり、ピコはそれをさらに「人間の自由」と関連づけ、「尊厳」概念は近代化されてゆく。「尊厳」を「rank」「status」と結び付けたイギリス経験論が、それを増減したり失ったりするものと捉えたのに対し、カントは価値論的に増減したり失ったりできない「内的で絶対的な価値」と特徴づけた。その後ニーチェによって不要論が唱えられるが、二つの世界大戦を通して巨大なカタストロフィの対抗理念として再び呼び出され、国連憲章や世界人権宣言、さらに日本国憲法やドイツ連邦共和国基本法に組み込まれた。それに加えて先端医療技術の発達に伴って成立した生命倫理学の分野で医療技術の濫用を抑止する概念として重視され、現在では国連 GC や SDGs 等を支える規範的理念としても位置づけられている。ところが、スイス憲法に「被造物の尊厳 (Würde der Kreatur)」が導入されたことで尊厳の生命中心主義的拡張が現実化し、人間中心主義的理解は根本的な理論的修正を必要とした。さらに EU 憲法 (Art.1-2) に「人間の尊厳」が最高規範の一つとして導入されると、ドイツ語の Menschenwürde と英語の human dignity とが内容的に一致しないことが判別分析から比較文化的に明らかになり、前者は客観的で絶対的な価値を、後者は主観的で相対的な価値を含意することが指摘された。これまでのどの尊厳概念研究も、スイス憲法の「被造物の尊厳」の生命中心主義的理解および日本の「少子化社会対策基本法」の「生命の尊厳」等をまだ十分に理論的分析の射程に収めておらず、これが研究開始当初は課題として残されたままであった。

他方で、日本はすでに「生命の尊厳」や「高齢者の尊厳」(厚労省 HP) という世界的にも新しく海外から注目される尊厳概念を発信しているが、その内実は不明なままである。特に前者の「生命の尊厳」は日本だけでなく中国/韓国でも唱えられており、その点で同様に東アジア独特の尊厳理解と想定されるが、欧米では非合理としてほとんど顧みられないことがない。しかし前述の「被造物の尊厳」の生命中心主義的理解と関連づけると簡単に切り捨てられる概念ではなく、この問題を繰り返さなければ、非欧米圏を含んだ尊厳理解のグローバルスタンダードとは言えない。ところが、非欧米圏では尊厳概念史さえ構築されていない。日本でも僅かな研究しかなく、中国・台湾・韓国・イスラーム圏・インド圏ではまだ試みられてもいないので、喫緊の学術的課題であると言えよう。特に国連 GC や SDGs の尊厳理念をグローバルな次元で規範的で実効的なものにするためには非欧米圏の尊厳理解を繰り返さなければならぬはずである。

グローバルな次元で尊厳概念が喫緊の課題であり続ける学術的背景の一つは、iPS 細胞研究やゲノム編集等の先端医療技術と超高齢化社会の問題、すなわち、人生の最初期と終末期の問題が解決されないまま残されているからである。この点に関しても欧米では学術的に先行しており、「人間の尊厳」と「人権」との基礎づけ関係等をめぐる議論を精力的に超高齢化社会の問題と関連づける試みを通して、尊厳ある高齢者介護システムが構築されつつあるとともに、尊厳を価値論的アプローチと統合して民主主義的で多元主義的な社会に相応しい概念へと洗練させようと試みられている。さらに注目すべきは、ヨーロッパでは尊厳概念にもとづいて「ヘイトスピーチ」や「フェイクニュース」等に制約をかける政策が取られ始めていることである。言論や報道の自由と「人間の尊厳」との兼ね合いをどのように考えたら良いのかは民主主義的で多元主義的な社会にとってグローバルに重要な課題であり、これも尊厳概念が喫緊の課題である学術的背景と言えよう。

2. 研究の目的

本研究は、「ドイツ応用倫理学の総合的研究 - 「人間の尊厳」概念の明確化を目指して - 」(基盤研究(A)・平成 19 年度-平成 22 年度・研究代表者 加藤泰史)および「尊厳概念のアクチュアリティ」(基盤研究(A)・平成 25 年度-平成 29 年度・研究代表者 加藤泰史)の両研究成果を、前述の学術的背景にもとづいてさらに理論的・比較文化的に深化させることによって、(i) 現在非欧米圏の各国において憲法の尊厳規定から福祉介護政策・生命政策や生命倫理学までの諸領域で尊厳がどのように問題になっているのかに関する議論と各国の伝統思想を具体的に分析した上で、それらの成果にもとづいて尊厳概念史を構築するとともに、(ii) 東アジアですでに成立している「生命の尊厳」概念が、先述の両科研費研究プロジェクトを通して従来の西洋哲学の理論枠組みでは説明できない課題として浮き彫りになったが、「A fitting attitude theory of value (態度適合理論)」にもとづいてその「生命の尊厳」を射程に入れた尊厳概念のグローバルスタンダードを構築するための「普遍的」基盤を解明し、(iii) 現代社会の喫緊の諸課題を解決できると同時に、社会の民主主義化と多元主義化に資するとともに国連の GC や SDGs に規範的で実効的な内実を与えることのできる包括的な尊厳概念の提案を目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、尊厳概念を多角的な観点から分析するために、欧米圏および非欧米圏の様々な学問領域の代表的な研究者が加わった学際的研究グループを形成するとともに、それを下記のように①欧米関係(哲学・応用倫理学などを含む)担当班・②日本関係担当班・③中国関係担当班・④韓国関係担当班・⑤イスラーム関係担当班・⑥仏教/インド哲学関係担当班の6班に分けて研究を遂行した。その上で、(1)価値論的アプローチを採用して、(2)欧米圏の尊厳理解を根本的に再検討/整理する。さらに(3)非欧米圏の尊厳理解を新たに掘り起こすとともに、概念史を構築して、最終的には(4)欧米圏と非欧米圏の議論とを突き合わせて比較し統合して、新たな尊厳理解を定式化する、という方法で研究課題を解明し、現代社会の諸問題に答えることを試みた。

氏名	所属	専門	役割分担
1. 欧米関係(哲学・応用倫理学・憲法関係を含む)担当班			
加藤泰史	椋山女学園大学	哲学・倫理学	ドイツ哲学・応用倫理学
宇佐美公生	岩手大学	倫理学・生命倫理学	英米哲学・倫理学
津田菜里	一橋大学	欧米哲学・思想史	18世紀初期ドイツのスピノザ主義
②日本関係担当班			
齋藤純一	早稲田大学	政治学・政治思想	政治理論・政治制度
石川健治	東京大学	憲法学	日本国憲法・比較憲法・法制度
後藤玲子	帝京大学	厚生経済学・福祉社会論	経済・福祉介護制度・福祉社会論・医療政策
上原麻有子	京都大学	日本哲学・翻訳論	近代日本哲学・翻訳論・ジェンダー論
清水正之	聖学院大学	日本哲学・日本思想	近世日本思想・近代日本哲学
ギブソン松井佳子	神田外語大学	比較文学・ジェンダー論	近現代日本文学・比較文学・表象論・ジェンダー論
品川哲彦	関西大学	倫理学・応用倫理学	生命政策・生命倫理学・生命医療倫理学
松田純	静岡大学	倫理学・生命倫理学	生命政策(特に、尊厳死・安楽死関係等)
村上祐子	立教大学	科学哲学・科学社会論	先端科学技術(AI・ロボット等を含む) データサイエンス
林香里	東京大学	メディア学・社会学	メディア論(ヘイトスピーチ・ハラスメントの問題等を含む)
③中国関係担当班			
小島毅	東京大学	中国哲学	中国哲学・思想(儒教を含む)
中村元哉	東京大学	中国憲政論	現代中国社会論・憲政論
牧角悦子	二松学舎大学	中国文学・中国文化論	中国文学・文化論
④韓国関係担当班			
小倉紀蔵	京都大学	朝鮮哲学	朝鮮哲学・思想・文化(朝鮮儒教を含む)
水野邦彦	北海学園大学	現代韓国社会論	現代韓国社会論(韓国の生命倫理学を含む)
⑤イスラーム関係担当班			
小松香織	早稲田大学	近代トルコ史	トルコなどイスラーム圏
⑥仏教・インド哲学関係担当班			
前川健一	創価大学	仏教学・宗教学	仏教思想

当初研究分担者であった林香里(東京大学)は、理事・副学長への就任およびその業務に専念するため、2021年に研究協力者へ変更せざるを得なくなった。さらに、本研究を進めていく過程で、尊厳概念史研究において18世紀初期ドイツの重要性が明らかになったため、その専門家としての専門的知見を提供してもらうべく、2022年に津田菜里(当時:一橋大学/現:東洋大学)を研究分担者に加えた。

上記の研究分担者に加え、本研究ではさらに国内外のさまざまな分野の研究者を研究協力者として迎え、研究会やシンポジウム、国際ワークショップ等を開いて議論を行い、互いの知見を共有しつつ課題に答え、その成果を後述する論文集として刊行した。

4. 研究成果

本研究では、研究代表者や研究分担者をはじめ、国内外の様々な研究協力者と連携し、国際ワークショップや研究会等を通して互いの知見を共有するとともに「尊厳」をめぐる諸問題について議論を交わし、それによって得られた研究成果を下記の図書の刊行という形で公表した。

国際ワークショップの研究成果として 2019 年に刊行した *Kant's Concept of Dignity* (Yasushi Kato・Gerhard Schönrich (eds.), De Gruyter) は、カントの尊厳概念と人権と密接に結びついている現代の尊厳概念について論じたものであり、これは先述の本研究の目的(ii)で言及した、「A fitting attitude theory of value」にもとづいたより包括的な尊厳概念のグローバルスタンダードを構築するための普遍的な基盤の解明を目指したものである。

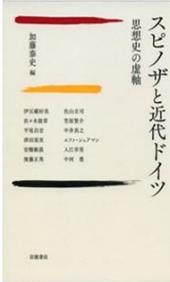
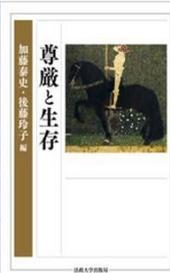
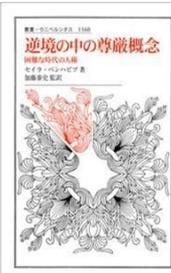
本研究の目的(iii)現代社会の喫緊の諸課題を解決しうる包括的な尊厳概念の提案を目指し、2020年に刊行した『尊厳と社会(上・下)』(加藤泰史/小島毅編、法政大学出版社)においては、上巻では、概念史や生命政策、環境政策といった、「尊厳ある社会」を構想する際の制度設計の基礎となる議論を提示し、下巻では、「尊厳」という観点から社会で生活する人々のより具体的なケースを分析した。同年の2020年には、本研究の内容が海外でも評価されている証として、研究代表者の加藤の中国語インタビュー「尊厳、公共性、物象化論(尊严、公共性与物化理论)」が『传承与坐标：马克思主义伦理思想访谈录』中国・中央編訳出版社、2020年)に掲載された。

2021年には、本研究の目的(i)非欧米圏の尊厳理解を分析しそれにもとづいた尊厳概念史の構築を目指すべく、『東アジアの尊厳概念』(加藤泰史/小倉紀蔵/小島毅編、法政大学出版社)を刊行し、日本・中国・韓国を中心とする東アジアから「尊厳」を見直し、この概念の同一性と差異性に多角的な焦点を当てることで尊厳概念を多元化し、「尊厳」による相互理解への道を開くことを目指した。また、同年12月5日には、代表者の加藤が日本学術会議のシンポジウムに登壇し、「コロナ・パンデミックと人間の尊厳の問題」というタイトルで発表を行い、このときの内容は2023年に刊行された『「人間の尊厳」とは—コロナ危機を経て—』(日本学術協力財団)に掲載された。

先述の本研究の目的(iii)であるより包括的な尊厳概念を提案すべく、未だ新型コロナウイルスの影響が残る2022年には、限界のある医療資源やトリアージ、ワクチンの分配や格差、先端医療、ゲノム編集、自己決定、出生前・着床前診断、終末期医療・ケア、文学、政治など多様な領域の喫緊の問題として「尊厳」を論じた『尊厳と生存』(加藤泰史/後藤玲子編、法政大学出版社)を刊行した。また同年には、コロナ禍で対面での研究会が難しい中、オンライン上での議論や意見交換を積み重ね、その成果を『スピノザと近代ドイツ：思想史の虚軸』(加藤泰史編、岩波書店、2022年)にまとめた。

新型コロナウイルスの影響による繰越によって本研究の最終年度となった2023年には、本研究の総括として11月25日に国際ワークショップ「尊厳概念を問い直す」(椋山女学園大学/対面とZoomとのハイブリッド形式)を開催し、このときの成果も含め、欧米圏のみならず非欧米圏(特に東アジア)における尊厳概念に関する概念史的考察および、より包括的な尊厳概念の可能性を探求する原理的考察の両者を含む研究成果を論文集『問いとしての尊厳概念』(加藤泰史編、法政大学出版社、2024年)にまとめた。

また、研究開始当初は予想だにしていなかったことではあるが、新型コロナウイルスの感染拡大によって移動の制限のみならず治療やワクチン接種の優先順位をどのように決定するのかといった問題が喫緊のものとして生じた。本研究は「尊厳」の観点からこのコロナ・パンデミックにアプローチすることで、その研究成果を日本学術会議との共同企画『コロナ禍とトリアージを問う』(青弓社)および『コロナ・トリアージ』(知泉書館)として刊行することができた。また研究代表者の加藤が2021年12月5日に開催された日本学術会議のシンポジウムに登壇して報告をした際、一般市民が「尊厳」に関して大変強い関心を持っていることを質問やアンケート等を通じて知った。これは、コロナ・パンデミックという未曾有の危機に際して、市民の多くが将来の社会のあり方に大きな不安を抱いていることを意味する。こうした漠然とした社会不安に応答するためにも、個別的に「尊厳」の問題を追求するにとどまらず、学術横断的に尊厳を研究することを通じて、新たな社会統合の理念として「尊厳」を社会実装することが必要不可欠だという、今後研究を進展させていく方向性を示してくれる認識が得られた。また、先述のように繰越期間に国際シンポジウムを開催し、そこでの報告・議論の内容を『問いとしての尊厳概念』(法政大学出版社、2024年)の掲載論文にまとめた。他にも、本項で挙げた刊行図書の多くはオンライン研究会の積み重ねによって得られた研究成果であり、コロナ禍という困難な状況下でも尊厳研究によって社会へ貢献することができた。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計104件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 24件）

1. 著者名 加藤泰史	4. 巻 なし
2. 論文標題 看護倫理学と「高齢者の尊厳」の問題・序説（図書所収論文）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『問いとしての尊厳概念』	6. 最初と最後の頁 17-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 なし
2. 論文標題 尊厳へのケイパビリティと公共的相互性（図書所収論文）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『問いとしての尊厳概念』	6. 最初と最後の頁 85-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 なし
2. 論文標題 人間の尊厳はくるむようにして守られる（図書所収論文）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『問いとしての尊厳概念』	6. 最初と最後の頁 111-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前川健一	4. 巻 なし
2. 論文標題 生まれてこないものの尊厳 仏教と反出生主義（図書所収論文）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『問いとしての尊厳概念』	6. 最初と最後の頁 355-367
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松香織	4. 巻 なし
2. 論文標題 オスマン社会における「尊厳」(図書所収論文)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『問いとしての尊厳概念』	6. 最初と最後の頁 535-551
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美公生	4. 巻 なし
2. 論文標題 「尊厳」概念の不確定性をめぐって(図書所収論文)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『問いとしての尊厳概念』	6. 最初と最後の頁 134-156
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原麻有子	4. 巻 なし
2. 論文標題 日本の近代化における女性の尊厳意識への目覚め(図書所収論文)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『問いとしての尊厳概念』	6. 最初と最後の頁 394-418
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井佳子	4. 巻 なし
2. 論文標題 関係概念としての 尊厳 『ひかりごけ』と『パートルビー』における 食 と 生 の共振をめぐって(図書所収論文)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『問いとしての尊厳概念』	6. 最初と最後の頁 419-443
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島毅	4. 巻 なし
2. 論文標題 春秋学の微辞と中華の復興（図書所収論文）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『問いとしての尊厳概念』	6. 最初と最後の頁 444-469
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻 なし
2. 論文標題 儒教的表現意識と個の表白 「詩言志」理解の変化をめぐる（図書所収論文）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『問いとしての尊厳概念』	6. 最初と最後の頁 470-488
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤泰史	4. 巻 なし
2. 論文標題 コロナ・パンデミックと人間の尊厳（図書所収論文）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『「人間の尊厳」とは コロナ危機を経て 』	6. 最初と最後の頁 21-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤泰史	4. 巻 なし
2. 論文標題 学問の「自律性」と学問の「公共性」（図書所収論文）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『人文学・社会科学の社会的インパクト』	6. 最初と最後の頁 1 - 22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤泰史	4. 巻 なし
2. 論文標題 イノベーションを哲学する 「批判的ファシリテーター」としての哲学(図書所収論文)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『人文学・社会科学の社会的インパクト』	6. 最初と最後の頁 25 66
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 なし
2. 論文標題 人文学への憧れと社会科学的営為としての経済哲学 福祉国家を戦争国家にしないために、いま、われわれがなすこと(図書所収論文)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『人文学・社会科学の社会的インパクト』	6. 最初と最後の頁 197 220
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ギブソン松井佳子	4. 巻 なし
2. 論文標題 個性性と普遍性が共存する文学の力 人間の生と社会改革への眼差し(図書所収論文)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『人文学・社会科学の社会的インパクト』	6. 最初と最後の頁 258-281
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田菜里・河村裕樹・森巧	4. 巻 なし
2. 論文標題 人文学・社会科学(社会学、歴史学、哲学・思想)における若手研究者の現状 新型コロナウイルス感染症のパンデミック下で顕在化した課題と見通し(図書所収論文)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『人文学・社会科学の社会的インパクト』	6. 最初と最後の頁 314 343
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美 公生	4. 巻 11
2. 論文標題 道徳の虚構性をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩手大学文化論叢 = The report of social studies, the Faculty of Education, Iwate University	6. 最初と最後の頁 1~12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15113/00015626	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美 公生、室井 麗子、大瀧 航	4. 巻 9
2. 論文標題 生徒の主体的な参加を促す「考え、議論する」道徳教育プログラムの開発(4)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育実践研究論文集	6. 最初と最後の頁 56~61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15113/00015583	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齋藤純一	4. 巻 No. 373
2. 論文標題 政党間の連携と政策の共有	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 DIO	6. 最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松香織	4. 巻 70号
2. 論文標題 年金受給にみるオスマン帝国の「長い10年」ーオスマン海運経営会議議事録から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田大学 教育・総合科学学術院 学術研究(人文科学・社会科学編)	6. 最初と最後の頁 229-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 Vol. 7, no. 1
2. 論文標題 『認知症患者安楽死裁判』の投げかけるもの	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 倫理学論究	6. 最初と最後の頁 74-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 Vol. 7, no. 1
2. 論文標題 批評「有馬斉『死ぬ権利はあるか』に関する誤解とすれ違いについて あるいは、倫理学の論文を書くということ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 倫理学論究	6. 最初と最後の頁 41-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 1
2. 論文標題 自殺する権利は人格権か ドイツ連邦憲法裁判所の業務による自殺幫助違憲判決	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究論文集 欧米諸国の生命倫理に関する基本理念及び運用・制度の法学劇、哲学・倫理学的比較研究	6. 最初と最後の頁 69-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻 19号
2. 論文標題 詩経研究の多様性 朱自清の詩経学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本聞一多学会報『神話と詩』	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前川健一	4. 巻 20号
2. 論文標題 日蓮理解における「思想的」方法の再検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本仏教総合研究	6. 最初と最後の頁 101-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前川健一	4. 巻 34号
2. 論文標題 鳩摩羅什訳仏典における辟支仏と縁覚	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 創価大学人文論集	6. 最初と最後の頁 35-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水正之	4. 巻 VOI.32, No.1
2. 論文標題 高橋義文先生の思い出ー下からの方法とお人柄	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NEWSLETTER	6. 最初と最後の頁 14-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島毅	4. 巻 35号
2. 論文標題 儒教経学における「嫂」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文化交流研究	6. 最初と最後の頁 77-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野邦彦	4. 巻 Vol.15, No.1
2. 論文標題 共生 を阻むもの	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 共生社会システム研究	6. 最初と最後の頁 154-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子・岡田章	4. 巻 72-2
2. 論文標題 ゲーム理論と社会的選択理論の接点 規範経済学の方法論的省察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 一橋大学経済研究所編『経済研究』	6. 最初と最後の頁 169-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美公生	4. 巻 21
2. 論文標題 尊厳概念の形而上学的意味の再検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本カント研究	6. 最初と最後の頁 51 - 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美公生	4. 巻 10
2. 論文標題 情動の道徳理論とカントの「情動」理解	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岩手大学文化論叢	6. 最初と最後の頁 27-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15113/00015353	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小松香織	4. 巻 69
2. 論文標題 トルコにおける親日観の源流	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学 教育・総合科学学術院 学術研究(人文科学・社会科学編)	6. 最初と最後の頁 169-186
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 70巻、4号
2. 論文標題 より豊かな正義概念と効率性のあるケア概念	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文學論集	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田純	4. 巻 5
2. 論文標題 なぜいま地域包括ケアか 病院医療の歴史的転換	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集	6. 最初と最後の頁 81-94
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻 36
2. 論文標題 災異を記録すること 『搜神記』を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国社会文化学会『中国 社会と文化』36号	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水正之	4. 巻 9月27日号
2. 論文標題 神に関係づけられる隣人愛に生きるーキリスト教大学の使命とはー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 クリスチャン新聞	6. 最初と最後の頁 1面
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林香里	4. 巻 7月号
2. 論文標題 「実名か匿名化か」の問いの罫 個人化する市民感覚との乖離	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『Journalism』朝日新聞社	6. 最初と最後の頁 58-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林香里	4. 巻 5月号
2. 論文標題 ジェンダー平等メディアの可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『共同参画』内閣府	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林香里	4. 巻 Vol. 9
2. 論文標題 「自由主義社会におけるメディアの現実 民主主義社会におけるメディアの役割」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『正義と平和講演録』	6. 最初と最後の頁 30-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mayuko Uehara	4. 巻 No 267-268
2. 論文標題 Les femmes savantes hors du systeme academique du Japon moderne	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Diogene - revue internationale des sciences humaines, Presses universitaires de France (PUF)	6. 最初と最後の頁 85-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島毅	4. 巻 34号
2. 論文標題 孔子を神として祭る：曲阜孔子廟の歴史	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化交流研究	6. 最初と最後の頁 33-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水野邦彦	4. 巻 第68巻3・4号
2. 論文標題 海東仏教の由来と礎石	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海学園大学経済学会『経済論集』	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上祐子	4. 巻 61(9)
2. 論文標題 情報化社会のニューノーマル：2. Jr. 教育のオンライン化～実施してみて分かったこと～：2.6. 授業手法としてのオンライン文書共有 - コロナ前後 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 情報処理	6. 最初と最後の頁 933-939
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子・神林 龍・小林秀行	4. 巻 71-3
2. 論文標題 外出・在宅活動へのケイパビリティ・アプローチの応用の試み - - 『A市高齢者・しょうがいしゃの外出に関する調査』より - -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一橋大学経済研究所編 『経済研究』	6. 最初と最後の頁 209-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasushi Kato	4. 巻 Vol.51 No.1
2. 論文標題 Watsuji und Herder ueber Kultur und Uebersetzung--Eine Zwischenbetrachtung--	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Hitotsubashi Journal of Social Sciences	6. 最初と最後の頁 63-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤泰史	4. 巻 -
2. 論文標題 現代日本の生命倫理学と尊厳の問題・序説	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤泰史、小島毅編 『尊厳と社会(上)』法政大学出版局(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 265-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松香織	4. 巻 No.30
2. 論文標題 近代オスマン帝国における福祉と戦争	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 15-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田純	4. 巻
2. 論文標題 (書評と紹介) 中山研一著『安楽死と尊厳死 その展開状況を追って』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤泰史、小島毅編『尊厳と社会(下)』法政大学出版局(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 296-302
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田純	4. 巻
2. 論文標題 (書評と紹介) 中島みち著『「尊厳死」に尊厳はあるか ある呼吸器外し事件から』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤泰史、小島毅編『尊厳と社会(下)』法政大学出版局(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 303-309
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美公生、室井麗子、佐々木淑乃、木村義輝	4. 巻 7号
2. 論文標題 生徒の主體的な参加を促す『考え、議論する』道徳教育プログラムの開発(3)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岩手大学教育学部教育実践研究論文集	6. 最初と最後の頁 77 - 84
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美公生	4. 巻
2. 論文標題 (書評と紹介) 内尾太一著『復興と尊厳 震災後を生きる南三陸町の軌跡』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤泰史、小島毅編『尊厳と社会(下)』法政大学出版局(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 133-137
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻
2. 論文標題 経学と文学 詩経研究を例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第十回日中学者中国古代史論壇論文集『学際化する中国学』汲古書院（図書所収論文）	6. 最初と最後の頁 133-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻
2. 論文標題 ヤマタノオロチと九尾のキツネ 日中古代神話学序説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 王小林、町泉寿郎編『日本漢文学の射程 その方法、達成と可能性』汲古書院（図書所収論文）	6. 最初と最後の頁 30-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻
2. 論文標題 曹操と楽府（二） 「歌以言志」「歌以詠志」の意味するもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三国志学会編『狩野直禎先生追悼 三国志論集』汲古書院（図書所収論文）	6. 最初と最後の頁 83 - 111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻
2. 論文標題 日本漢文学 その定義と概論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 牧角悦子、町泉寿郎編『漢学という視座』戎光祥出版（図書所収論文）	6. 最初と最後の頁 53-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻
2. 論文標題 中国近代の尊厳概念 魯迅の小説を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤泰史、小島毅編『尊厳と社会(上)』法政大学出版局(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 232 246
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻
2. 論文標題 中国文学の成立	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 牧角悦子、町泉寿郎編『講座 近代日本と漢学 第4巻 漢学と学芸』戎光祥出版(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 117-131
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林香里	4. 巻 No.1140
2. 論文標題 新聞紙の衰退にみる日本の「公共」の構造変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 40-58
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masayuki SHIMIZU	4. 巻 2019号
2. 論文標題 The natural and the artificial: Concepts of nature in modern Japanese ethics	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Special Issue of the Annals of Ethics 2019	6. 最初と最後の頁 15-35
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水正之	4. 巻
2. 論文標題 日本の思想における尊厳と尊貴 世界における人間の位置	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤泰史、小島毅編『尊厳と社会(上)』法政大学出版局(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 17-47
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ギブソン松井佳子	4. 巻
2. 論文標題 文学の経験表現から考究できる 尊厳 の諸相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤泰史、小島毅編『尊厳と社会(上)』法政大学出版局(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 189-210
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻
2. 論文標題 ワーク・ライフ・バランスと公共的相互性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大曾根寛・森田慎二郎・金川めぐみ・小西啓文編『福祉社会へのアプローチ 久塚純一先生古希祝賀[上巻]』成文堂(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 553-570
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻
2. 論文標題 人間の尊厳と人文社会科学の挑戦 原爆被害者「生活史調査」を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤泰史、小島毅編『尊厳と社会(上)』法政大学出版局(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 3-30
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 第6巻
2. 論文標題 アメリカのデモクラシーと社会福祉	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 後藤玲子・新川敏光編『新・世界の社会福祉』旬報社（図書所収論文）	6. 最初と最後の頁 26-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤 玲子	4. 巻 70
2. 論文標題 われわれは福祉国家の「現実的ユートピア」を描けるだろうか：原爆被害者運動を手がかりとした日米比較分析の視座	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 227～246
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15057/30483	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 後藤 玲子	4. 巻 70
2. 論文標題 小特集：何（誰）のための社会進歩か？ 福祉国家の再構築 序文	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 225～226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15057/30484	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村上祐子	4. 巻 119(67)
2. 論文標題 高等教育における AI とデータサイエンス教育の動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 研究報告電子化知的財産・社会基盤（EIP）	6. 最初と最後の頁 67-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村上祐子	4. 巻 34(2)
2. 論文標題 人工知能の倫理と社会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人工知能	6. 最初と最後の頁 176-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11517/jjsai.34.2_176	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村元哉	4. 巻
2. 論文標題 美蘇冷戦下の港台反共自由主義 解読人権思想的政治背景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立政治大学図書館特蔵管理組『未完結的戦争 戦後東亜人権問題』	6. 最初と最後の頁 15-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村元哉	4. 巻
2. 論文標題 1970年代の香港における左派思想 毛沢東派『盤古』の思想空間	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 石川禎浩編『毛沢東に関する人文学的研究』	6. 最初と最後の頁 303-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陳健成、小島毅	4. 巻
2. 論文標題 伝統中国における梅の表象	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤泰史、小島毅編『尊厳と社会(上)』法政大学出版局(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 211-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島毅	4. 巻
2. 論文標題 尊厳概念の構築と個の尊重	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤泰史、小島毅編『尊厳と社会(上)』法政大学出版局(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 439-444
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻
2. 論文標題 アニミズム・神・環境危機 尾崎一雄論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 井上克人教授退職記念論文集	6. 最初と最後の頁 157-180
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 49号
2. 論文標題 (書評と紹介)小松原織香著『性暴力と修復的司法 対話の先にあるもの』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 倫理学研究	6. 最初と最後の頁 146-149
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野邦彦	4. 巻 通巻219号
2. 論文標題 韓国 過去事 清算と日韓関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海学園大学経済学会『経済論集』	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤泰史	4. 巻 -
2. 論文標題 ビルンバッハの功利主義とドイツの生命・環境倫理学－監訳者あとがきに代えて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ディーター・ビルンバッハ『生命倫理学－自然と利害関心の間』（法政大学出版局）（図書所収論文）	6. 最初と最後の頁 497-509
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤泰史	4. 巻 no.1139
2. 論文標題 思想の言葉－批判と公共	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想（岩波書店）	6. 最初と最後の頁 2-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤泰史	4. 巻 no.1139
2. 論文標題 公共と尊厳－一つの見取り図	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想（岩波書店）	6. 最初と最後の頁 7-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前川健一	4. 巻 92巻1号
2. 論文標題 （書評と紹介）松尾剛次著『中世叡尊教団の全国的展開』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 186-189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20716/rsjars.92.1_186	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 前川健一	4. 巻 26号
2. 論文標題 (本の紹介)立正大学仏教学会『大崎学報』第173号	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法華仏教研究	6. 最初と最後の頁 267-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前川健一	4. 巻 第31号
2. 論文標題 智顛著作における「大経」と「大論」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 創価大学人文論集	6. 最初と最後の頁 23-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇佐美公生、佐々木聡也、室井麗子	4. 巻 6号
2. 論文標題 生徒の主體的な参加を促す『考え、議論する』道徳教育プログラムの開発(2)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岩手大学教育学部教育実践研究論文集	6. 最初と最後の頁 33-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻 -
2. 論文標題 “花開”或是“花笑”：中日文化交流の一個側面	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『第九屆中日学者古代史論壇文集』中国社会科学院歴史研究所・日本東方学会・黄河文明伝承與現代文明建設河南省協同創新中心編	6. 最初と最後の頁 70-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻 第17号
2. 論文標題 朱自清『詩言志辨』について 近代学術と経学の融合	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本閩一多学会報『神話と詩』	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧角悦子 (共著者・和久希)	4. 巻 第49号
2. 論文標題 韓愈「秋懐詩」をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 二松學舎大学『東アジア学術総合研究所集刊』	6. 最初と最後の頁 49～50、84～91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻 -
2. 論文標題 近代日本における文学概念の導入と中国古典学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 江藤茂博編『文学部のリアル』新典社 (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 85-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧角悦子	4. 巻 第133号
2. 論文標題 亀井南冥の為人と学問	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 斯文	6. 最初と最後の頁 166-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水正之	4. 巻 -
2. 論文標題 自然と人為 日本近代の諸相からー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本倫理学会『第69回大会報告集』	6. 最初と最後の頁 16-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水正之	4. 巻 68
2. 論文標題 自然と人為 日本近代の倫理学における自然概念	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 倫理学年報	6. 最初と最後の頁 43-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤純一、嶋田暁文	4. 巻 -
2. 論文標題 合意形成とは何か?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 金井利之編著『縮減社会の合意形成ー人口減少時代の空間制御と自治』第一法規 (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 20-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤純一	4. 巻 -
2. 論文標題 合意形成における理由の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 金井利之編著『縮減社会の合意形成ー人口減少時代の空間制御と自治』第一法規 (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 28-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤純一	4. 巻 -
2. 論文標題 政治思想史におけるロールズ-政治社会の安定性という観点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 井上彰編『ロールズを読む』ナカニシヤ出版(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 181-203
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤純一・田中愛治・古城佳子・小須田翔	4. 巻 -
2. 論文標題 序論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 田中愛治編『熟議の効用、熟議の効果: 政治哲学を実証する』勁草書房(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島毅	4. 巻 556号
2. 論文標題 湊川で神になった悪党	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 品川哲彦	4. 巻 68巻4号
2. 論文標題 ジョンソンとワルシュの善と正をめぐって 徳倫理学覚書(一)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文學論集	6. 最初と最後の頁 17-38
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 1140号
2. 論文標題 思想の言葉	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 2-6
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 1140号
2. 論文標題 <公共的相互性>の論理とかたち	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 82-99
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 394号
2. 論文標題 アローとセン 社会的選択理論の成立とその批判的展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田政治経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 30-40
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 -
2. 論文標題 環境の経済哲学序説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宇佐美誠 編著『気候正義』勁草書房(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 163-184
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Gotoh, Reiko	4. 巻 Vol 16, No 2
2. 論文標題 Can we draw a “realistic utopia” toward publicly reciprocal welfare state? - A comparison of welfare programs between Japan and USA	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Social Work and Society International Online Journal	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gotoh Reiko, Yoshihara Naoki	4. 巻 76
2. 論文標題 Securing basic well-being for all	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Review of Social Economy	6. 最初と最後の頁 422-452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00346764.2018.1529331	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野邦彦	4. 巻 11号
2. 論文標題 近代日本の「風土」論と景観	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 環境思想・教育研究	6. 最初と最後の頁 29-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野邦彦	4. 巻 276集
2. 論文標題 心性 研究とマンハイム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済系	6. 最初と最後の頁 74-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計127件（うち招待講演 39件 / うち国際学会 40件）

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 「自己決定に基づいて死ぬ権利は人間の尊厳の表れ」か 自殺援助罪を違憲としたドイツ連邦憲法裁判所判決をめぐって
3. 学会等名 第105回日独応用倫理学研究会 / 第46回一橋・梶山哲学フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤泰史
2. 発表標題 高齢者の尊厳
3. 学会等名 第106回日独応用倫理学研究会 / 第47回一橋・梶山哲学フォーラム 国際ワークショップ「尊厳概念を問い直す」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小島毅
2. 発表標題 春秋学に見る中華の尊厳
3. 学会等名 第106回日独応用倫理学研究会 / 第47回一橋・梶山哲学フォーラム 国際ワークショップ「尊厳概念を問い直す」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 公共的相互性の論理と尊厳へのケイパビリティ
3. 学会等名 第106回日独応用倫理学研究会 / 第47回一橋・梶山哲学フォーラム 国際ワークショップ「尊厳概念を問い直す」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加藤泰史
2. 発表標題 コロナ・パンデミックと人間の尊厳の問題
3. 学会等名 日本学会議公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤純一
2. 発表標題 共通善としてのパブリック・ヘルスについて
3. 学会等名 社会経済史学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 品川哲彦
2. 発表標題 「超政治」の政治責任
3. 学会等名 哲学会2021年度研究大会ワークショップ「ハイデガー哲学の『政治性』」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 品川哲彦、盛永審一郎、小林真紀、本田まり
2. 発表標題 安楽死と私生活の権利 生命の権利と人間の尊厳
3. 学会等名 日本生命倫理学会第33回大会シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前川健一
2. 発表標題 仏教思想における「人間の尊厳」と菩提心
3. 学会等名 第64回智山教学大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前川健一
2. 発表標題 日蓮理解における「思想的」方法の再検討
3. 学会等名 第 20 回 日本仏教総合研究学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前川健一
2. 発表標題 中世日本の密教と日蓮
3. 学会等名 第44回智山談話会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前川健一
2. 発表標題 自著『現代語訳 顕戒論』について（付：最澄と『諸法無行経』）
3. 学会等名 伝教大師最澄没後1200年記念国際ワークショップ『最澄と顕戒論』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 被験者保護のための規制の正当性の歴史 臨床研究の意義と倫理的枠組み
3. 学会等名 静岡県立静岡がんセンター臨床研究研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 新型コロナ危機とこれからの社会
3. 学会等名 まあるいしずおか えもなトーク（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 なぜいま地域包括ケアか ～病院医療の歴史的転換
3. 学会等名 放送大学公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 人間の尊厳とはなにか
3. 学会等名 関東医学哲学・倫理学会総合部会10月例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 価値観の多様性とむきあう臨床
3. 学会等名 日本尊厳死協会 第10回日本リビング・ウイル研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水正之
2. 発表標題 高橋義文先生の思い出ー下からの方法とお人柄
3. 学会等名 聖学院大学総合研究所「ラインホールド・ニーバー研究会及び組織神学・伝道研究会」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 風そよぎ、光あふれる<人>と<まち>---国立ケイパビリティ・シンポジウム---
3. 学会等名 外出に関するアンケート調査中間報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Reiko Gotoh, Ryo Kambayashi, Hideyuki Kobayashi, Huilin Wang
2. 発表標題 Measuring Capability Difficulties in Going Out and Staying at Home,
3. 学会等名 HDCA Global Dialogue 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 デジタル版悪という凡庸 ~ AI/データサイエンス社会における差別と社会的偏見 ~
3. 学会等名 電気情報通信学会 SITE, IA, IPSJ-IOT研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 哲学は人工知能とどのような関係にあるのか、あるべきなのか
3. 学会等名 東京大学次世代知能科学研究センター連続シンポジウム 第6回AI時代の哲学を考える
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuko Murakami
2. 発表標題 Higher Education and Logic
3. 学会等名 World Logic Day Japan 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 データサイエンス・人工知能のELSIと大学教育：デジタルシティズンシップとリベラルアーツ
3. 学会等名 電子情報通信学会 技術と社会・倫理研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 大学院レベルのICT-ELSI教育：科目「先端科学技術の倫理」を通じて
3. 学会等名 電子情報通信学会 技術と社会・倫理研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuko Murakami
2. 発表標題 " Education " to obscure academic women in Japan
3. 学会等名 THE XVIIIITH SYMPOSIUM OF THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF WOMEN PHILOSOPHERS (IAPH): DEFINING THE FUTURE, RETHINKING THE PAST (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 データサイエンスのELSIとは何か
3. 学会等名 セキュリティサマーサミット2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuko Murakami
2. 発表標題 AI/DS ELSI
3. 学会等名 Fairness, Integrity and Transparency of Formal Systems: Challenges for a Society Increasingly Dominated by Technology, DLMPST-PHSJ joint symposium (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 情報教育とケアの倫理
3. 学会等名 電子情報通信学会 技術と社会・倫理研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuko Murakami
2. 発表標題 Analytic philosophy in Japan: focusing women and American influences
3. 学会等名 American Philosophical Association Pacific Division (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇佐美公生
2. 発表標題 戦後補償・和解・尊厳 花岡事件を中心にして
3. 学会等名 日独応用倫理学研究会 (第97回)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 なぜいま多職種連携か? 21世紀型医療への構造的転換
3. 学会等名 第4回日本老年薬学会学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 価値観と文化の多様性にむきあう生命倫理学
3. 学会等名 第32回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 人生の最終段階をどう支えるのか～地域包括ケアと多職種連携のなかの生命倫理～
3. 学会等名 静岡市・静岡市医師会共催 在宅医療に関する意見交換会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 新型コロナ危機と人間の尊厳～トリアージをめぐって
3. 学会等名 放送大学公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水正之
2. 発表標題 日本思想史研究の成立と展開－人文科学と社会科学の間－
3. 学会等名 第七回全国研究生研習会「人文科学與社會科学對話的日本研究」台湾大学（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小島毅
2. 発表標題 現代社会における儒教の意義
3. 学会等名 関谷学校創学350周年記念講演（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小島毅
2. 発表標題 東アジア諸国の歴史・文化的多様性の受容と共生に向けて
3. 学会等名 三鷹市生涯学習センター
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 「誰も取り残さない社会に備える情報教育」パンデミック時代における科学技術と想像力
3. 学会等名 パンデミック後の知能と社会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuko Murakami
2. 発表標題 Externalism of mind: integrated system of human and machine.
3. 学会等名 the 2nd International Symposium on Designing the Human-Centric IoT Society (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 『外出自粛』の経済哲学的考察
3. 学会等名 第39回一橋/相山哲学フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 福祉有償運送とケイパビリティ調査
3. 学会等名 国立市市長懇談会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 ケーパビリティ調査～外出・在宅の自由を実現するために求められるかたち～
3. 学会等名 くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasushi Kato
2. 発表標題 Kant's concept of "a public use of reason" as a heuristic use
3. 学会等名 International Conference: "Kant and the Future of Humanity"/Peking University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi Kato
2. 発表標題 Opening Remarks on International Conference for the Philosophy of the Social Sciences: Human dignity and Well-being
3. 学会等名 International Conference for the Philosophy of the Social Sciences: Human dignity and Well-being (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 前川健一
2. 発表標題 仏教は日本で何に会ったのか 仏教伝来の再検討
3. 学会等名 日本佛教学会2019年度学術大会 (第89回大会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前川健一
2. 発表標題 如空の衆生を度す：仏教思想における個の否定と尊重
3. 学会等名 一般財団法人東方学会2019年度秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 健康，自律概念をとらえ直した21世紀型医療の目標
3. 学会等名 2019年度日本医師会生涯教育講座 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 人生の最終段階の医療をめぐってー日本とドイツの比較的考察
3. 学会等名 シンポジウム「終末期医療、安楽死・尊厳死に関する総合的研究」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 薬学・多職種連携教育で使える生命倫理・医療倫理の事例を作ろう!
3. 学会等名 第4回日本薬学教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 在宅で療養する高齢者に対する医療とケアの倫理
3. 学会等名 第3回日本老年薬学会学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇佐美公生
2. 発表標題 尊厳概念の形而上学的意味の再検討
3. 学会等名 日本カント協会(第44回学会)シンポジウム「カントと尊厳の復権」提題
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 牧角悦子
2. 発表標題 日本の近代における学問体系の分化
3. 学会等名 東アジア文化交渉学会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 牧角悦子
2. 発表標題 近代ヨーロッパと中国学　レオン・ド・ロニーの漢籍コレクションを通して
3. 学会等名 二松學舎大学人文学会第119回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 牧角悦子
2. 発表標題 古代帝王「禹」をめぐる近代の物語
3. 学会等名 中国文化研究国際論壇「中国文化の伝統と解釈」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 牧角悦子
2. 発表標題 日本における中国古典学研究の現状
3. 学会等名 河南大学文学部講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 牧角悦子
2. 発表標題 中国近代における尊嚴概念の表出
3. 学会等名 東方学会 秋期大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林香里
2. 発表標題 なんだろう？近頃の日本のメディア 自由主義社会におけるメディアの現実、民主主義社会におけるメディアの役割
3. 学会等名 日本カトリック正義と平和協議会 改憲対策部会主催
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Uehara Mayuko
2. 発表標題 L'idee de l' "intelligence de la nature" trouvee dans la philosophie japonaise moderne
3. 学会等名 La nature pense-t-elle ? / Does Nature Think ? (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水正之
2. 発表標題 日本思想史研究の成立と展開 人文科学と社会科学の間
3. 学会等名 第七回全国研究生研習會「人文與社會科学對話的日本研究」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤純一
2. 発表標題 「共通善」としての公衆衛生について
3. 学会等名 社会経済史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 大河口マンとしての経済学 塩野谷祐一の大いなるチャレンジ
3. 学会等名 シンポジウム「経済哲学とは何であるのか?」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤玲子・神林龍
2. 発表標題 外に出るノ家でくつろぐ'2018ケイパビリティ調査'が写した国立
3. 学会等名 この先の福祉交通について考えるシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Publicness and Democracy
3. 学会等名 2019 Human Development and Capability Association Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 責任を負うこと、責任を問うこと 国家補償の論理と意味
3. 学会等名 第3回責任の研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Formulation of Public Reciprocity as a 'Realistic Utopia
3. 学会等名 Asian Conference on the Philosophy of the Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉紀蔵
2. 発表標題 在日コリアンの哲学
3. 学会等名 東国大学(韓国)日本学研究所40周年記念学術シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉紀蔵
2. 発表標題 大塩中斎哲学の核心ー日本的陽明学とはなにか
3. 学会等名 吹田市立博物館(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉紀威
2. 発表標題 日韓関係における尊厳概念の構築
3. 学会等名 東方学会 秋季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉紀威
2. 発表標題 尊厳、多重主体主義、日韓関係
3. 学会等名 世界文学会 「政治と世界文学」連続講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉紀威
2. 発表標題 日本文明の哲学・序論
3. 学会等名 京都産業大学 世界問題研究所（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Murakami
2. 発表標題 Women in Philosophy in Japan
3. 学会等名 日本哲学会大会男女共同参画ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 高等教育におけるAIとデータサイエンス教育の動向
3. 学会等名 電気情報通信学会 技術と社会・倫理研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Murakami
2. 発表標題 Women Philosophers in Japan
3. 学会等名 Libori Summer School 2019, Paderborn University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Murakami
2. 発表標題 Moral Evaluation over an Extended Notion of Agency
3. 学会等名 International Conference of the European Academy of Management and Business Economics (AEDEM) XXVIII AEDEM Best paper award. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Murakami
2. 発表標題 Choice, Agency, and Dignity in the Age of Artificial Intelligence
3. 学会等名 ECIAIR 2019. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 人工物と行為
3. 学会等名 科学基礎論学会秋の研究例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水野邦彦
2. 発表標題 韓国と向き合う日本
3. 学会等名 大学・社会を考える講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi Kato
2. 発表標題 Project 2023 WCP -Toward a Pluralized World Philosophy
3. 学会等名 General assembly of FISP (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤泰史
2. 発表標題 哲学および人文・社会科学における男女共同参画推進・若手研究者支援の理念、現状、そして展望 - - 日本哲学会の事例紹介 - -
3. 学会等名 関西哲学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤泰史
2. 発表標題 人文学・社会科学の社会的インパクトとは何か? - - 「学問の尊厳」と「学問の Civic Turn」 - -
3. 学会等名 第6回一橋大学政策フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤泰史
2. 発表標題 「尊厳概念のグローバルスタンダードの構築に向けた理論的・概念的・比較文化論的研究」への助走
3. 学会等名 小倉紀蔵研究室・第34回コロキウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi Kato
2. 発表標題 Kant's concept of the "public use of reason"
3. 学会等名 The 26. Hitotsubashi International Conference on Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前川健一
2. 発表標題 三観と三諦
3. 学会等名 公益財団法人東洋哲学研究所第34回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 尊厳ある人生の最終段階はどのようにして実現できるのか
3. 学会等名 第30回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 医療と倫理～精神科医療の倫理～
3. 学会等名 静岡県立こころの医療センター倫理研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 在宅医療における倫理的な問題点を考える 平成30年度在宅患者に対応可能な薬剤師の人材育成業務
3. 学会等名 在宅医療研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 人生の最終段階における医療をめぐって～アドバンス・ケア・プランニングの意義～
3. 学会等名 榛原総合病院倫理研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 安楽死と尊厳死の現在～人生の最終段階の医療をめぐって～
3. 学会等名 ケアの人間学合同研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇佐美公生
2. 発表標題 道徳の生成と形而上学的概念
3. 学会等名 岩手哲学会第52回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧角悦子
2. 発表標題 経学と文学 詩経研究を例として
3. 学会等名 第10回 日中学者古代史論壇「学際化する中国学」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧角悦子
2. 発表標題 朱自清『詩言志辨』について
3. 学会等名 日本閩一多学会大会 第22回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧角悦子
2. 発表標題 ヤマタノオロチと九尾の狐 日中比較神話学序説
3. 学会等名 国際ワークショップ「日本漢文学の射程 方法と達成」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧角悦子
2. 発表標題 近代ヨーロッパと中国学
3. 学会等名 明治維新150周年記念国際シンポジウム(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧角悦子
2. 発表標題 鎮西の儒侠亀井南冥の為人と学問
3. 学会等名 先儒祭記念講演(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧角悦子
2. 発表標題 かなしいうた 「歌以言志」「歌以詠志」の意味するもの
3. 学会等名 六朝学術学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧角悦子
2. 発表標題 近代日本における漢学の変容 学問から學術へ
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジアにおける漢文文化の伝播と流通」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 Inquiring into Gender Difference in the Self-Other Relation within Nishida's Inter-Subjective Philosophy
3. 学会等名 Asian Association for Women Philosophers "Philosophizing Gender: Women and Patriarchy in Asian Society and History" 24th World Congress of Philosophy (WCP) Invited Sessions (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 Translation as Monologue In light of the "Call" between 'I and You' within Nishida Philosophy
3. 学会等名 3d Conference of the International Association of Japanese Philosophy, 24th WCP, Society Sessions (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 The Contemporary Philosophy of Hiromatsu Wataru: From Marxist Philosophy to the Theory of Facial Expression
3. 学会等名 3d Conference of the International Association of Japanese Philosophy, 24th WCP, Society Sessions (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 実存の性差を問う 絶対的他性、対等、尊厳の現代的問題
3. 学会等名 4th Meeting of the European Network of Japanese Philosophy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水正之
2. 発表標題 キリスト教主義学校における宗教と道徳 建学の精神と多様化する社会
3. 学会等名 日本カトリック教育学会第24回大会・シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水正之
2. 発表標題 自然と人為 日本近代の諸相からー
3. 学会等名 第69回日本倫理学大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤純一
2. 発表標題 パブリック・スペースについての考え方
3. 学会等名 日本建築学会戦略的パブリックスペース活用特別研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ギブソン松井佳子
2. 発表標題 個別性と普遍性が共存する文学の力：人間の生と社会変革へのまなざし
3. 学会等名 第6回一橋大学政策フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ギブソン松井佳子
2. 発表標題 ケネス・レクスロス：「詩」と「政治的なるもの」のはざままで
3. 学会等名 シンポジウム「文学による日米の架け橋：ケネス・レクスロス、翻訳、戦争」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉紀蔵
2. 発表標題 歴史と尊厳・・・戦後日韓関係の思想から
3. 学会等名 小倉紀蔵研究室 第34回コロキウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉紀蔵
2. 発表標題 歴史と尊厳・・・哲学的準備
3. 学会等名 小倉紀蔵研究室 第35回コロキウム、東アジア和解と平和の声研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村元哉
2. 発表標題 民国時期的法学和日本の關係 来自東京、流經上海、南京轉往重慶的法学思潮
3. 学会等名 Global Cities: The Networks of Connectivity in East Asia, Southeast Asia and the Pacific Region
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村元哉
2. 発表標題 美蘇冷戦下の港台反共自由主義 解読人権思想的政治背景
3. 学会等名 政治大学数位史料与研究論壇2018 戦後東亜人権問題（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村元哉
2. 発表標題 晚清民初的著作權概念与其制度 中日比較研究
3. 学会等名 近代東アジアにおける知識移転と政治変容
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島毅
2. 発表標題 三国志の魅力
3. 学会等名 日本学術会議哲学委員会古典精神と未来社会分科会公開シンポジウム「人づくりと古典」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島毅
2. 発表標題 儒教のなかに尊厳に相当する概念を探す
3. 学会等名 小倉紀蔵研究室第34回コロキウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 日本社会における人工知能の哲学的・倫理的課題
3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「脳科学と人工知能」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 哲学の若手支援：社会的インパクトに向けて
3. 学会等名 第6回一橋大学政策フォーラム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 軍民両用技術において自律的知能機械対人間という枠組みは妥当か
3. 学会等名 電気情報通信学会総合大会 技術と社会・倫理専門委員会企画セッション「科学技術者コミュニティと軍事研究：軍民両用技術と科学技術の価値」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上祐子・小山虎
2. 発表標題 人工知能と哲学
3. 学会等名 日本哲学会大会シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 Can East Asian Culture Contribute to Philosophy of AI in Practice?
3. 学会等名 The Fource Conference on Contemporary Philosophy in East Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 哲学プラクティスB2B
3. 学会等名 哲学プラクティス学会第1回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 Current Situations in Japan under Privacy Concerns on Household Robots.
3. 学会等名 ETHICOMP 2018, Polish-Japanese Academy of Information Technology & SWPS University of Social Sciences and Humanities (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上祐子
2. 発表標題 演繹的道德推論の射程
3. 学会等名 情報処理学会第81回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上祐子・辰己丈夫
2. 発表標題 放送大学の情報教育
3. 学会等名 大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 社会科学の殿堂 一橋大学改革論
3. 学会等名 2018年度第6回一橋大学政策フォーラム「人文学・社会科学におけるインパクトとは何か？」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Can we draw a 'realistic utopia' toward publicly reciprocal welfare state?
3. 学会等名 International Conference of "Social Progress for What (Whom)--Reconstruction of the Welfare State" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Gotoh and Hideyuki Kobayashi
2. 発表標題 Independence in daily living of individuals- Formulation with positional objectivity and empirical analysis
3. 学会等名 Cambridge Capability Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 The non-identity problem and the social choice procedure -Revisit to the intergenerational equity-
3. 学会等名 The 14th Social Choice and Welfare Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Can we draw a 'realistic utopia' toward publicly reciprocal welfare state? -A comparison of welfare programs between Japan and USA
3. 学会等名 International Conference on Ambivalences of the Rising Welfare Service State -Hopes and Hazards of Fundamentally Realigning the Architecture of Welfare Modernity (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計47件

1. 著者名 加藤泰史編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 574
3. 書名 問いとしての尊厳概念	

1. 著者名 セイラ・ベンハビブ著、加藤泰史監訳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 438
3. 書名 逆境の中の尊厳概念：困難な時代の人権	

1. 著者名 加藤泰史、松塚ゆかり編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 364
3. 書名 人文学・社会科学の社会的インパクト	

1. 著者名 加藤泰史編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 292
3. 書名 コロナ・トリアージ：資料と解説	

1. 著者名 加藤泰史・土井健司・田坂さつき編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 224
3. 書名 コロナ禍とトリアージを問う	

1. 著者名 齋藤 純一、田中 将人	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 256
3. 書名 ジョン・ロールズ	

1. 著者名 齋藤 純一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 208
3. 書名 平等ってなんだろう？	

1. 著者名 島園進・末木文美士・大谷栄一・西村明（編）、島園進、塚田穂高、高橋原、堀江宗正、川村覚文、及川高、飯嶋秀治、鎌田東二、岡本亮輔、川又俊則、橋迫瑞穂、磯前順一、稲葉圭信、前川健一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 296
3. 書名 近代日本宗教史 第六巻 模索する現代	

1. 著者名 小倉 紀蔵	4. 発行年 2021年
2. 出版社 P H P 研究所	5. 総ページ数 216
3. 書名 韓国の行動原理	

1. 著者名 伊東貢之(編)、小島毅(著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 948
3. 書名 東アジアの王権と秩序	

1. 著者名 宇佐見耕一、小谷眞男、後藤玲子、原島博、岡伸一、金子光一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 416
3. 書名 世界の社会福祉年鑑2021(2022年度版)	

1. 著者名 加藤 泰史、小倉 紀蔵、小島 毅、ギブソン松井佳子、前川健一、武田祐樹、松田純、池田弘乃、品川哲彦、中村元哉、倪培民、スティーブン・C・アングル、王小偉、李亜明、鍾宜錚、香川知晶、小林道太郎、徳地真弥、高畑祐人、金泰昌、片岡龍、金光来、宇佐美公生、岩佐宣明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 550
3. 書名 東アジアの尊厳概念	

1. 著者名 品川 哲彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 280
3. 書名 倫理学入門	

1. 著者名 只木 誠、グンナー・デュトゲ（編）、松田純（他著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 528
3. 書名 終末期医療、安楽死・尊厳死に関する総合的研究	

1. 著者名 土方透、清水正之、ヨハネス・ヴァイス、ゲハルト・ヴェグナー	4. 発行年 2020年
2. 出版社 聖学院大学出版会	5. 総ページ数 352
3. 書名 世界社会の宗教的コミュニケーション	

1. 著者名 清水正之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北京九州出版社	5. 総ページ数 326
3. 書名 日本思想全史（簡体字中国語版）	

1. 著者名 小熊 英二、樋口 直人、田中瑛、林香里（他著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 376
3. 書名 日本は「右傾化」したのか	

1. 著者名 矢口祐人、林香里	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 272
3. 書名 東大塾 現代アメリカ講義	

1. 著者名 船橋 洋一、G・ジョン・アイケンベリー、林香里	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 430
3. 書名 自由主義の危機	

1. 著者名 Kaori Hayashi, Yoichi Funabashi, G. John Ikenberry.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Brookings Institution Press. Washington. D.C.	5. 総ページ数 415
3. 書名 The Crisis of Liberal Internationalism. Japan and the World Order.	

1. 著者名 前川健一 訳注	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋哲学研究所	5. 総ページ数 392
3. 書名 現代語訳 顕戒論	

1. 著者名 伊藤 邦武、山内 志朗、中島 隆博、納富 信留、上原 麻有子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 世界哲学史 8	

1. 著者名 小倉 紀蔵	4. 発行年 2020年
2. 出版社 P H P 研究所	5. 総ページ数 254
3. 書名 群島の文明と大陸の文明	

1. 著者名 島園 進、末木 文美士、大谷 栄一、西村 明、小島 毅	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 288
3. 書名 維新の衝撃	

1. 著者名 加藤 泰史、伊豆蔵好美、佐山圭司、佐々木能章、笠原賢介、平尾昌宏、中井真之、津田菜里、エファ・シュアマン、安酸敏眞、入江幸男、後藤正英、中河豊	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 430
3. 書名 スピノザと近代ドイツ	

1. 著者名 加藤 泰史、後藤 玲子、美馬達哉、エゼキエル・J・エマニュエル、ギブソン松井佳子、諸昭喜、隠岐須賀麻衣、馬場智一、品川哲彦、ジルベール・オトワ、小林道太郎、香川知晶、宇佐美公生、ベッティナ・シェーネ・ザイファート、魏偉、小椋宗一郎、金相得、水野邦彦、岩佐宣明	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 494
3. 書名 尊厳と生存	

1. 著者名 Gotoh, R	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 276
3. 書名 The Ethics and Economics of the Capability Approach	

1. 著者名 新村聡、田上孝一（編）、後藤玲子（著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 392
3. 書名 平等の哲学入門	

1. 著者名 名嶋 義直、寺川 直樹、田中 俊亮、竹村 修文、後藤 玲子、今村 和宏、志田 陽子、佐藤 友則、古閑 涼二	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 276
3. 書名 10代からの批判的思考	

1. 著者名 Yasushi Kato, Gerhard Schoenrich, Christoph Horn, Dieter Birnbacher, Reza Mosayebi, Matthias Kettner, Saneyuki Yamatsuta, Susan Meld Shell, Oliver Sensen, Thomas E. Hill, Jr., Dieter Sturma	4. 発行年 2020年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 340
3. 書名 Kant's Concept of Dignity	

1. 著者名 加藤 泰史、小島毅、清水正之、ギブソン松井佳子、牧角悦子、品川哲彦、香川知晶、高畑裕人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 454
3. 書名 尊厳と社会(上)	

1. 著者名 加藤泰史、小島毅、後藤玲子、小倉紀蔵、宇佐美公生、松田純、小林道太郎、岩佐宣明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 462
3. 書名 尊厳と社会(下)	

1. 著者名 松田純、盛永審一郎、松島哲久、小出泰士	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 338
3. 書名 いまを生きるための倫理学	

1. 著者名 John W. M. Krumme, Fujita Masakatu, Naka Mao, Uehara Mayuko	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Rowman & Littlefield International	5. 総ページ数 289
3. 書名 Contemporary Japanese Philosophy A Reader	

1. 著者名 Gereon Kopf, Mayuko Uehara, Richard K. Payne, John C. Maraldo, Makio Takemura, Michiko Yusa, Rein Raud, Ralf Mueller, Tomomi Asakura, Pamela D. Winfield, James Mark Shields, Manabu Watanabe, Victor Forte, David L. Gardiner, James L. Ford, Steven Heine, Shudo Ishii, Dennis Hirota, Ruben L. F. Habito et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 749
3. 書名 The Dao Companion to Japanese Buddhist Philosophy	

1. 著者名 廣木尚、陣野英則、甚野尚志、伊川健二、渡邊義浩、飯山知保、新川登亀男、上原麻有子、冬木ひろみ、常田禎子、橋本一径、パトリック・シュウェマー、雪嶋宏一、牧野元紀、河野貴美子、小山騰、和田敦彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 415
3. 書名 近代人文学はいかに形成されたか 学知・翻訳・蔵書	

1. 著者名 水上雅晴編、小川剛生、石井行雄・猪野 毅・近藤浩之、高田宗平、大形 徹、名和敏光、月脚達彦、ファム・レ・ファイ、清水浩子、多田伊織、甘懐真、福島金治、田中大喜、董嶺、久禮旦雄、鶴成久章、大川真、清水正之、鄭吉雄、赤澤春彦、水口幹記、尾形弘紀、水上雅晴、武田時昌、細井浩志、未永高康、吉野健一、高田宗平、所功	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 706
3. 書名 年号と東アジア	

1. 著者名 土方透編、G・ヴェグナー、J・ヴァイス、N・ルーマン、清水正之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 聖学院大学出版会	5. 総ページ数 352
3. 書名 世界社会の宗教的コミュニケーション	

1. 著者名 後藤玲子、新川敏光	4. 発行年 2019年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 557
3. 書名 新世界の社会福祉 第6巻	

1. 著者名 川島真、中村元哉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 440
3. 書名 中華民国史研究の動向	

1. 著者名 久保 亨、土田 哲夫、高田 幸男、井上 久士、中村 元哉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 304
3. 書名 現代中国の歴史 第2版	

1. 著者名 水野 邦彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 288
3. 書名 韓国の社会はいかに形成されたか	

1. 著者名 松田純	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 272
3. 書名 安楽死・尊厳死の現在	

1. 著者名 清水正之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 聯経出版事業部股イ分有限公司(台湾)	5. 総ページ数 399
3. 書名 日本思想全史(中国語繁体字)	

1. 著者名 齋藤直子、酒井直樹、ポール・スタンディッシュ、ルネ・V・アルシラ、今井康雄、ナオミ・ホジソン、三澤紘一郎、朱よう、嘉指信雄、ギブソン松井佳子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 248
3. 書名 < 翻訳 > のさなかにある社会正義	

1. 著者名 中村元哉	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有志舎	5. 総ページ数 268
3. 書名 中国、香港、台湾におけるリベラリズムの系譜	

1. 著者名 後藤玲子、宇佐見耕一、岡伸一、金子光一・小谷眞男、原島博、米田裕香、東田全央、徳永景子、宮下明子、福地健太郎、	4. 発行年 2018年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 380
3. 書名 世界の社会福祉年鑑	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>TU Dresden Prof. Dr. Gerhard Schoenrich https://tu-dresden.de/gsw/phil/iphil/personen/ehemalige/schoenrich?set_language=en University of Bonn Prof. Dr. Dieter Sturm https://www.philosophie.uni-bonn.de/de/personen/professoren/prof.-dr.-dieter-sturma University Duesseldorf Prof. Dr. Frank Dietrich https://www.philosophie.hhu.de/personal/philosophie-i-politische-philosophie-und-ethik Georgetown University Henry S Richardson https://gufaculty360.georgetown.edu/s/contact/00336000014RXCWAA4/henry-richardson Vanderbilt University John Weymark https://as.vanderbilt.edu/economics/bio/john-weymark/ University of Hamburg Prof. Dr. Peter Niesen https://www.wiso.uni-hamburg.de/fachbereich-sowi/professuren/niesen/team/niesen-peter.html University of Oslo Professor Reidar Maliks https://www.hf.uio.no/ifikk/personer/vit/filosofi/fast/reidama/index.html University of Illinois Philosophy Helga Varden https://www.philosophy.illinois.edu/people/hvarden University of Sussex Dr Katerina Deligiorgi http://www.sussex.ac.uk/profiles/198873</p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	小松 香織 (KOMATSU Kaori) (10272121)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前川 健一 (MAEGAWA Ken'ichi) (20422355)	創価大学・文学研究科・教授 (32690)	
研究分担者	松田 純 (MATSUDA Jun) (30125679)	静岡大学・人文社会科学部・名誉教授 (13801)	
研究分担者	宇佐美 公生 (USAMI Kosei) (30183750)	岩手大学・教育学部・嘱託教授 (11201)	
研究分担者	石川 健治 (ISHIKAWA Kenji) (40176160)	東京大学・大学院法学政治学研究科（法学部）・教授 (12601)	
研究分担者	竹下 悦子（牧角悦子） (TAKESITA Etsuko) (40181614)	二松學舎大學・文学部・教授 (32664)	
研究分担者	上原 麻有子 (UEHARA Mayuko) (40465373)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	清水 正之 (SHIMIZU Masayuki) (60162715)	聖学院大学・人文学部・特任教授 (32412)	
研究分担者	齋藤 純一 (SAITOU Junichi) (60205648)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松井 佳子 (MATSUI Keiko) (60255180)	神田外語大学・外国語学部・教授 (32510)	
研究分担者	後藤 玲子 (GOTO Reiko) (70272771)	帝京大学・経済学部・教授 (32643)	
研究分担者	小倉 紀蔵 (OGURA Kizo) (80287036)	京都大学・人間・環境学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	村上 祐子 (MURAKAMI Yuko) (80435502)	立教大学・人工知能科学研究科・教授 (32686)	
研究分担者	中村 元哉 (NAKAMURA Motoya) (80454403)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	小島 毅 (KOJIMA Tsuyoshi) (90195719)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授 (12601)	
研究分担者	品川 哲彦 (SHINAGAWA Tetsuhiko) (90226134)	関西大学・文学部・教授 (34416)	
研究分担者	水野 邦彦 (MIAUZNO Kunihiko) (90305897)	北海学園大学・経済学部・教授 (30107)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	津田 菜里 (TSUDA Shiori) (50961992)	一橋大学・大学院社会学研究科・特任講師（ジュニアフェロー） (12613)	
研究分担者	林 香里 (HAYASHI Kaori) (40292784)	東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 The 92th Japanese-German Association of Applied Ethics	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The 95th Japanese-German Association of Applied Ethics	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 The 87th Japanese-German Association of Applied Ethics	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関